

平成 21 年度

事業所名 : グループホーム きらら

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100974		
法人名	医療法人 徳政堂		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地	〒028-4304 岩手県岩手郡岩手町大字子抱 8-110-7		
自己評価作成日	平成 21年 11月 17日	評価結果市町村受理日	平成 22年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372100974&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372100974&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成21年12月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんの個性を重視し、「生活の場である」ことを忘れずに介護することで、利用者さんも職員もお互いに、いつも元気で笑い合える生活ができるように、日々努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いに寄り添うためには決められた日課に対応することよりは、とにかく利用者との会話を持つという姿勢のもと管理者を中心に職員全員で日々取り組んでいる。訪問した際には利用者が互いを気遣い合い、職員と昼食の手伝いや食事をしながら会話を楽しんでおり、和やかな雰囲気が感じられた。また近隣との付き合いや自治会に加入するなど地域との交流は図られているものの、更に地域の人々が気軽に訪れることができるような場所にしていきたいとの思いを持っている。今年度は職員全員で自己評価を行うことにより日々のケアについて職員個々の振り返り、必要性の理解が深まっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム きらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を施設内に掲示し、全職員が日常的に確認しながら共有し、実践する努力をしている。	利用者と職員がお互いに尊重し助け合いながら生活を共にするという姿勢を理念として掲げ、ミーティング時に話題にしなが職員は常に理念を意識してケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、地域や小学校の行事などに参加している。また、日ごろから散歩のときなどに挨拶することも多く、入居者の顔を覚えてもらえている。	地区の自治会に加入しており今年度は自治会主催のバーベキューに参加したり、地区の小・中学校の入学・卒業式にも招待客として出席した。近所の人からは野菜の差し入れがあったりと地域とは日常的な交流が行われている。	事業所としての認知度は深まってきているが地域の人をもっと気軽に立ち寄れる場所としていきたいと考えており今後、より一層垣根のない交流になっていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者を交えての世間話などで、対応の方法を見ていただいており、理解が深まってきていると思われる。また、対応方法についての相談を受けることもあり、頼りにされる場面も出てきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告など、ホームからの情報提供を行うだけでなく、非常時の援助体制や、近隣の環境整備などを検討し、協力を依頼できる場となっている。	メンバーは自治会長、地区民生委員、包括職員等となっており、定期的に開催されている。外部評価等の結果の報告や、様々な話題の中から地域の状況等を把握することによりサービスの向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは、町の事業に協力したり、こちらから疑問点を質問したりと良好な関係を構築できている。	日常的に分からない点があればすぐに問い合わせをしたり、町主催のボランティア教室や育成事業などの見学先として受け入れたりと町担当者との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常、身体拘束は行っていない。設備的にも安全に配慮しつつ行動を制限しないように、日常的に玄関やサンルームは施錠しないで、入居者が自由に出入りできる状態になっている。	法人で行う身体拘束廃止の研修に参加し、日常的にも言葉によるもの等があることについて認識を深め、日々の関わりのなかで気が付いた時には管理者を中心に注意を促し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法の資料を回覧し、学習することで虐待を見過ごすことがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を回覧しているが、現入居者で対応となる方がいないため、興味が薄く、理解が深まっていない状態である。外部の勉強会なども利用して学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等では、専門的な用語が使われているため、なるべく平易な言葉に置き換え、理解していただきやすいように気をつけて説明している。また、項目ごとに疑問点などを確認しながら説明していくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会にあわせ無記名でのアンケートを行い、参考にしている。また、日常的な会話の中での意見も参考にしている。	家族の思いを聞くためにアンケートを実施しているほか、来訪時や、家族会、ホームの行事開催時に集まる機会などで話す何気ない言葉から意見や要望をくみ取るよう留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、事業所ミーティングを行い、その結果を、法人の運営会議に出している。	ミーティング内で職員同士が話し合い、ケアの方法や事務の効率化等について検討し対応している。また必要に応じて法人での会議に管理者が報告や提案を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の報告を元に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では定期的に研修を行っている。また、グループホーム協会など各種団体の研修会や、自治体主催の研修会などに適宜参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に加盟しており、定例会や見学会、各種研修を合同開催したりと交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言いたいことを傾聴することで、安心感、信頼感を醸成し、率直な気持ちが言えるような雰囲気を作ることを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話で聞き取ることはもちろん、言葉に出ない気持ちを汲み取り、対応できるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の話をよく聞き取った上で、適切に対応できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念を念頭に置いた上で、職員が指導を受けることもあり、お互いに補い合う良好な関係を築くことができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いに相手の立場を尊重しながら、利用者にとって最善となるように協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の商店への買い物やお祭りなど、昔馴染みの場所や行事に出かけ、楽しんでもらえるように努めている。	スーパーなどへの買い物や地区のお祭りに出掛ける際には、顔なじみの人と会う機会となっている。このほか、家族が利用者と外食に出かけたり、職員による利用者の馴染みの場所への外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のときに呼んできてもらったり、飲み物を渡してもらったりなどと、協調し、支えあい、補い合えるような声かけや、誘導に努めている。また、実践してもらったことに感謝の言葉を伝えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なじみの関係を大事にしており、本人、ご家族からの相談があれば、できる限りのフォローアップを行うよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やしぐさ、表情などから本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。	職員から積極的に話題を振るなどしながら、利用者と会話することを大切にしており、その時々何気ない表情や態度から意向を汲み取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報として、家族より聞き取った情報を保存しているが、加えて本人との日常会話からも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのゆったりとした時間を大事にすることで、おのおのの自然な状態を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との会話の中から、希望を聞き取り、各職員の協力でアセスメントを行っている。これを元に介護計画を作成している。	担当職員が利用者本人の言動等からアセスメントを行い、定期的に職員間で話し合いを持ち最終的にはケアマネが計画を作成している。また家族との日常会話の中から表れる希望等を計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に加え、特変事項については、日誌に記載し、確実に情報の共有を行えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に、「家だったら、どうしているのか」を考えて、生活する場として、自分らしく生活してもらえるように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人情報把握することで、地域でのつながりを把握することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、日々連絡を取り合い、適切な医療を受けられる体制となっている。	定期受診は利用者の状態を把握している職員が援助しているが検査等が必要となった場合には家族が行っている。なお利用者の希望によりかかりつけ医は同一法人の医療機関となっているため、連携が取りやすい。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としては看護師は配置されていないが、契約により週二回、看護師の来訪がある。そのときに相談することで、適切に医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人や家族の不安をできるだけ解消し、安心して治療できるように情報交換を密にし、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個別に説明などは行っているが、明確に方針を決定するまでには至っていない。重要な内容のため、本人、家族の気持ちに十分配慮しながら進めたい。	看護職員が配置されていないので、介護職員で対応可能な場合や医療処置等が必要なため対応できない場合について家族に対して説明している。現時点で具体的な対応を必要とする利用者はいないが、ホームでは今後のことを見据えた方針の共有を利用者・家族と図っていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を準備し、各職員で学習しているが、定期的な訓練はできていないため、今後実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。また、自治会を通じて近隣の協力を得られる体制になっている。	毎月の避難訓練を実施する以外に緊急通報装置には全職員にも自動的に連絡が入る体制となっている。スプリンクラーの設置が予定されている。	近隣住民への協力依頼がなされているが、避難訓練の実際の場面にも参加協力してもらおうなど、今後に向けてより一層の協力体制が深まることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり違う人格であるとの共通認識をもち、年長者への敬意を持った対応となるように心がけている。	プライバシー保護や守秘義務に関する研修を実施し理解を深めている。声かけは慣れ合いにならないよう、また尊厳を傷つけないよう利用者の個別に応じた対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、行動や表情での表現を見逃さず対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	曜日で設定している活動もあるが、そのとき何をやるかは本人の意向を確認した上で、本人の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には、美容院へ送迎しパーマをかけてもらっている。また、日常の身支度では、本人の希望は受け入れつつ、時節にあった服装となるように留意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れた献立を作成し、それを元に利用者、職員が共同で調理を行っている。時々、材料によっては利用者の指導でメニューが変わることがある。片付けも共同で行うことができている。	献立は利用者の好みを考慮している。買い物も利用者と一緒にいき、料理の下ごしらえ等も一緒に行っている。食事の準備後片付けなどは利用者が率先していき、食事でも会話をしながら各々のペースで摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は月に一度、法人の栄養士に栄養バランスをチェックしてもらっている。また、好みに応じて、お茶、コーヒー、牛乳、などさまざまな飲み物で、飽きずに水分が取れるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声をかけて行っている。介助が必要な方には、義歯洗浄も行っている。加えて、週二回は義歯洗浄剤を使用して入居者全員の義歯を消毒洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に時間や状態を記入して、パターンを把握している。その上で、トイレでの排泄を基本と考え、個人のパターンに応じた介助を行っている。オムツ等は極力使用しないようにしている。	排せつチェック表に記入し利用者ごとの排せつパターンを把握している。さりげなく声かけをするなどできるだけトイレでの排せつに結び付けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師よりの指導もあり、便秘の危険性について職員共通の認識をもって取り組んでいる。具体的には運動量の確保や食物繊維の摂取、水分摂取などに留意している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回、必ず入浴できる日を設定しているが、それ以外の日でも、希望によって対応している。声をかけても拒否されることもあるが、時間を置いて対応するなど、本人の意見を尊重するように留意している。	入浴日には朝からの入浴が可能であり、また希望があれば入浴日以外の対応も行っている。就寝前に足浴を行っている利用者もいる。入浴に積極的でない場合にはタイミングを見払い声かけをし入浴に結び付けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で、それぞれが自然にすごせるように努めているが、閉じこもりにならないようにも気を配っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	書籍やインターネットで薬の情報を確認し、医療ノートへ記入することで、その情報を職員相互で共有して理解を深めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や配膳など日常の活動を、ある程度任せて行ってもらうことで「必要とされている感覚」を感じてもらえるように留意している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩をしたり、ドライブに出かけたりと外出の楽しみを支援している。以前はご家族と一緒に日帰り温泉ドライブに行ったこともある。	ほぼ毎日の散歩を行っている他、近所のスーパーへの食材を買いに職員と一緒にいくなど、外出の機会を持つようにしている。ちやぐちやぐ馬っこには毎年見学に行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの買い物に同行してもらうなど、買い物の機会を設けるように努力している。購入時には買いすぎにならないように、注意を払って行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を書いたり、贈答品のお礼の電話をかけるなど、つながりを保てるように気をつけて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの庭で育てた花を飾ったり、みんなで作った作品を飾ったり、穏やかで居心地のよい場所になるように気を配っています。	共用スペースとしての居間兼食堂が建物の中心に据えられ、また庭に面した大きな窓から日差しが差し込み利用者が日常的に集いやすい空間となっている。壁には利用者と職員が共同で作った作品が飾られているなど居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周囲から死角となるスペースが二箇所あり、時折入居者同士でいろいろな話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込は自由に行えるため、タンスや長持、仏壇や縁日の金魚を置いている方もいる。 本人の希望を生かしながら、安全に配慮して対応している。	居室は利用者それぞれが使い慣れたものを持ってきている。縁日で釣った金魚を飼ったり、花や動物の置物を飾ったりなど利用者それぞれの個性が活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室とトイレの距離、手すりを設けて段差のない廊下など安全に動ける設計となっている。 加えて、動作の支障となるものを置かないように気配りしている。		